

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月23日実施)	総合評価 (4月7日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>・生徒の多岐にわたる進路希望に応じた多彩な教育課程を編成し、ICT利活用授業の研究を推進する。</p> <p>・生徒の主体的な行動を促し、生徒会活動やボランティア活動を充実させ、学校行事を活性化させる。</p>	<p>①新学習指導要領を踏まえた教育課程を編成する。 ICT利活用授業研究推進校として、指定第Ⅱ期の2年目とした研究開発を目標とする。</p> <p>②活気のある学校生活を維持するため生徒のさまざまな主体的な活動を支援する。</p>	<p>①-1 教科代表によるカリキュラム検討委員会において、十分に協議を重ね、教育課程を編成する。</p> <p>①-2 生徒の学力の向上につながるための、ICTを利活用した授業を全教員が展開する。</p> <p>②生徒が主体的に活動できるよう本年度の現状を踏まえて行事のあり方を工夫する。</p>	<p>①-1 教育課程を編成出来たか。</p> <p>①-2 ICT利活用授業の実施率(100%)を達成出来たか。</p> <p>②学校行事において生徒が主体的に活動できたか。(アンケート)</p>	<p>①令和4年度入学生の教育課程の大枠を編成した。</p> <p>ICT利活用が進み、生徒及び職員のスキルが向上した。ICT利活用授業を実施できた。</p> <p>②輝城祭体育の部・文化の部は実施時期を変更し規模を縮小して行った。球技大会は当初予定より1日拡大して行った。生徒の満足度は概ね高かった。</p>	<p>①新校の教育課程について更なる協議を重ねていく。各教科での授業のノウハウを引継ぐ手立てを更に連携するべきであり、改善のためには共有化を推進。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症防止の観点から、県の指示などを踏まえた実施時期に応じた臨機応変な対応が必要である。</p>	<p>・ICT利活用教育は城山高校の大きな特色であり「売り」でもある。日本全国でオンライン授業が広がる中、いち早く対応できたことは、とても先端的で自慢できることと思う。</p> <p>・行事の精選・工夫や長期休業の短縮等により、大きな混乱や遅れなく教育活動が進められた。</p> <p>・城山高校のカラーを出して、どのような逆境にあっても「頑張って楽しむ」ことが重要である。</p>	<p>①令和4年度入学生の教育課程を編成した。新校の教育課程について更に協議を重ねていく。緊急事態宣言での休校措置により、対面授業が実施できない中、ICTを活用したオンラインによる課題提出を実施した。今後も継続した職員の利活用するという意識が必要である。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症防止という制約の中では最大限の活動をさせることができ、生徒の活気ある活動を見ることができた。</p>	<p>①新校の特色ある教育課程を編成するため、地域との連携を深めていく。 オンラインでの授業を実施するうえで、今の状況に沿った校内規定を見直す必要がある。</p> <p>②「新しい生活様式」を踏まえた行事の在り方を工夫する必要がある。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>・基本的な生活習慣を定着させるとともに、規範意識を高める。</p> <p>・部活動を活性化し、生徒の自主性を育むとともに、教育相談を充実させ、インクルーシブ教育の視点に立った個に応じた支援を行う。</p>	<p>①SMAPや生活見直し週間等の指導の実践を通して規範意識を高め、問題行動やいじめの防止と交通安全指導に取り組み、安心・安全な学校をつくる。</p> <p>②部活動への興味関心を高め、活発に活動できるようにする。</p>	<p>①-1年間3回の生活見直し週間、年間4回のSMAP実施週間や適時行う校外自転車乗車指導により、生徒へ声かけを行う。</p> <p>①-2いじめの早期発見のために、年間2回の学校生活アンケートを実施する。</p> <p>②警察や交通安全協会等と連携して交通安全行事(交通安全デー、スケアードストリート等)を実施する。</p> <p>②部活動加入促進のため、各部のホームページやポスター制作等を通して、部活動参加の意識を活性化させる。</p>	<p>①-1 SMAP実施週間での声かけが、基本的な生活習慣の定着等、生徒の指導に生かされたか。特別指導件数が減少したか。</p> <p>①-2 学校生活アンケートがいじめの早期発見に有効であったか。</p> <p>②-1 自転車乗車マナーに関する近隣からの苦情の減少。</p> <p>②-2 交通事故件数の減少。</p> <p>②部活動加入率の上昇がみられたか。</p>	<p>①休校や分散登校等の対応により1学期に「SMAP」および「生活見直し週間」の実施ができず、基本的な生活習慣の確立と規範意識向上の徹底が効果的に行われなかった。特別指導件数は昨年度並みであった。学校生活アンケート結果からはいじめの兆候はみられなかった。</p> <p>②本来年度当初行うはずの交通安全指導(自転車乗車マナー教室)等が実施できず、学校再開後、自転車マナーに関する苦情が多かった。自転車事故件数は昨年度並みであった。</p> <p>③一斉休校等があったため、部活動紹介や体験入部ができなかったことや、部活動の活動再開が夏季休業に近い時期になったこともあり、部活動へ積極的に参加しようとする意識を高めることができなかった。入部率も上がらなかった。</p>	<p>①「SMAP」および「生活見直し週間」の組織的、計画的実施を通じて基本的な生活習慣の定着と規範意識の向上を図る。</p> <p>②警察や交通安全協会と連携した交通安全行事や自転車乗車マナー教室を実施し交通安全意識の啓発を図る。また、各HRでの交通安全指導を徹底する。</p> <p>③新型コロナウイルス感染症防止のための制約があったため、生徒の部活動への参加意識を高める効果的な手立てを行なう。</p>	<p>・一年を通して毎朝の検温・健康観察、マスク着用の徹底、場面場面での三密回避、消毒作業(教職員)などにより、城山高校におけるクラスターを防止することができたので地域からも評価できる。</p> <p>・コロナ禍にあって、更に「生徒の心のケア」にも留意して頂きたい。</p> <p>・部活動入部率の低下が例年話題に上がっている。時代の流れで仕方ないことだが、未加入の生徒が学校生活でより充実できるよう配慮してほしい。</p> <p>・生徒・生活指導は毎日のルーティンワーク、当たり前を当たり前にあきらめずに頑張してほしい。生徒からは少々の反発もあると思うが、卒業してからの生徒の成長を楽しみにして頑張してほしい。</p>	<p>①生活見直し週間やSMAPでの声かけは、生徒と教師の望ましい人間関係の構築に役立ったが今年度は基本的な生活習慣の定着と規範意識の向上においては効果が薄かった。定期的な学校生活アンケートの実施によりいじめ防止の啓発に繋がった。</p> <p>②交通安全の意識については、交通安全行事の実施と継続的な指導により改善されつつあるが、今後も継続的に時宜を得た指導が必要である。</p> <p>特別指導の件数については、昨年度並みであるが、携帯・スマホの指導については減少傾向が見られる。今後も粘り強い指導を如何に実践していくかが課題である。</p> <p>朝の検温や健康観察票提出の習慣づけは、新型コロナウイルス感染症拡大防止に役立った</p> <p>③活動が制限される中で、部活動に参加している生徒は充実した学校生活を送ることができた。引き継ぎ、生徒の学校生活を充実したものにする工夫が必要である。</p>	<p>①生活見直し週間及びSMAPについては、今後も計画的・組織的に展開し、より積極的な生徒指導を目指す。</p> <p>②登下校時交通安全指導や学年集会、啓発プリントの配付などを通じて、自転車による交通事故や問題行動の減少など、生徒が安心・安全で豊かな学校生活を送れるよう、生活指導の充実を図る。</p> <p>朝の検温や健康観察においてより効率的で確実な記録方法を検討し実施する。</p> <p>③城山高校への入学を志望する中学生への広報も含めて、さまざまな場面で部活動への参加意識を高める働きかけが必要である。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月23日実施)	総合評価(4月7日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科や総合的な探究の時間の学びを通じて、自分なりの職業観や勤労観を身につけ、自らの夢や希望を見出せるよう支援する。</li> <li>・多様な進路希望に応じたキャリア教育を実践し、進路実現を図る。</li> </ul>	<p>①総合的な探究の時間を通じて、自己の適性や能力を理解し、職業観や勤労観を持たせるような職業調べを行う。</p> <p>②進路ガイダンスや掲示板、進路通信を通じて多様な進路に応じた情報提供を行い、卒業時の進路未定者をできるだけ少なくする。</p>	<p>①1年次では進路適性検査を実施し自己理解を深め、2年生以降は小論文指導、インターンシップを通じて職業観、勤労観を意識させる。</p> <p>②-1年1回の進路ガイダンスの実施、進路通信を隔月発行し、多様な進路についての知識を深める。</p> <p>②-2担任による進路面談を学期毎に実施し、保護者との進路面談を年1回は実施する。</p>	<p>①-1適性検査、小論文指導を通じて、インターンシップ参加者が増加したか。</p> <p>①-2総合的な探究の時間を通して学んだ進路について、学年末に発表を行うことで職業観、勤労観が深まったか。</p> <p>(アンケート)</p> <p>②-1進路ガイダンスの実施、進路通信の発行ができたか。</p> <p>②-2生徒一人ひとりの進路希望が実現した割合。</p> <p>(アンケート)</p>	<p>①総合的な探究の時間を通じて、1学期に実施できなかった進路適性検査、小論文指導を3学期に実施する。インターンシップへの参加はできなかった。</p> <p>②進路ガイダンス、掲示板、進路通信を通じて多様な進路情報を紹介することができた。進路通信は隔月での発行はできなかったがこれまで3回発行した。</p> <p>②-3学年以外は担任による進路面談、保護者面談は実施できなかった。</p>	<p>①職業観・勤労観が深まったか、アンケートを実施する。</p> <p>次年度もインターンシップに参加ができない場合、職業に関わる動画の視聴などを行うことで職業観、勤労観について考える機会を設ける。</p> <p>②進路通信の発行を継続する。</p> <p>②1、2年生は進路面談が実施できなかったが、進級する前に進路の意向を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四大志望者が微減、専門学校が例年並、就職希望が減の状況から、行き先のない子が増えていない心配である。今後も求人が大幅減になることも予想されることから、手厚い進路指導をお願いしたい。</li> <li>・年々一般選抜より学校推薦型選抜を選ぶ傾向が進んでいる。一般選抜を希望する生徒への放課後の補習等、校内での受験指導の強化が課題である。新型コロナウイルス感染症により経済的問題が高校生の就職活動に大きな影響を及ぼしており、新三年生の就職指導は早めに行う必要がある。</li> </ul>	<p>①進路適性検査を実施し、各自の適性や課題に向き合う機会を持つことができた。進路通信を通して、時期に応じた進路情報を生徒、保護者に伝えることができた。就職を希望した生徒は概ね就職することができたが、求人が減った飲食・観光などを希望する生徒には、進学という選択肢についても提案していく。</p> <p>②-1、2年生ともに進路ガイダンスを実施し、職業観や勤労観について学ぶ機会を設定できた。卒業時の進路未定者は昨年と比べ若干減った。進路希望実現度アンケートは実施できなかった。</p>	<p>①次年度もインターンシップに参加できない可能性がある。進路ガイダンスを実施し、職業についての動画視聴や専門学校による体験型授業に参加するなど希望する業種をより詳しく知る機会を提供していく。</p> <p>①指定校推薦や総合型選抜で進学する場合も、早い段階で学部研究をしっかりとさせ、目標をもって進学できるよう指導する。</p> <p>1、2年生の特進クラスの生徒を対象に、定期試験期間以外にも補習を行い、模擬試験を積極的に受けさせ、受験意識を高めていく。</p>
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部資源を活用して地域と共に歩む学校づくりを目指し、地域との協働・連携を一層強める。</li> <li>・総合的な探究の時間や部活動、ボランティア活動を通じて、地域と連携の充実を図る。</li> </ul>	<p>①学校運営協議会を中心に、高校生が地域の行事やボランティア活動に積極的に参加することにより、地域との協働・連携の充実を図る。</p> <p>②各種行事のPR方法の工夫ホームページの定期的な更新と内容の充実を図る。</p>	<p>①学校運営協議会の地域連携部会を中心に、公民館等の行事に部活動・生徒会単位での参加やボランティア活動で協力する。</p> <p>②コンテンツ管理システム(CMS)による学校ホームページを公開し、内容を定期的に更新する。</p>	<p>①地域のイベントに参加・協力した生徒が昨年度比で5名以上増えたか。</p> <p>②-1コンテンツ管理システム(CMS)に移行出来たか。</p> <p>②-2各コンテンツのアクセス数が1割増加したか。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症防止を優先したため、イベントの中止やボランティア活動の呼び掛けをなくした。学校説明会は10月に延期して、コロナ対策を講じて行うことができた。</p> <p>②コンテンツ管理システム(CMS)による学校ホームページを12月に移行することができた。</p>	<p>①コロナ禍であってもできる範囲内で、地域のイベントへの参加を協力していきたい。11月の入試説明会を資料郵送や動画配信で行ったので、今後も工夫して実施していく。</p> <p>②各グループにホームページ担当を置き、今後、各コンテンツの内容を充実させていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新校準備は、着実に進行しているようだが、ぜひ、地域に根付いた新校作りを目指してほしい。</li> <li>・地域との連携については、実績を見ても良くされている。通学形態もイメージアップにつながると思う。</li> <li>・今後、各団体や相模原市などに、本校のボランティアや各取組などを更に発信してもらおう事により、主催者から参加依頼が来るのではないかと思う。</li> </ul>	<p>①従前から、ひまわりクラブの活動は、高い評価を得ている。今後は他の部活動の地域貢献が課題である。</p> <p>②コンテンツ管理システム(CMS)による学校ホームページを予定通り12月に移行することができた。</p> <p>学校説明会は8月から10月に延期し、コロナ対策を講じながら部活動見学まで行うことができた。11月の入試説明会は事前申込を受け付けたが実施できず、後日、資料送付や動画配信を行った。</p>	<p>①ダンス部、軽音楽部、書道部等が積極的に地域の行事へ参加している。さらに一般生徒まで幅広く募集する。今後、各団体や相模原市などに、ボランティアや各取組などを発信し、参加できるイベントを募集する。</p> <p>②コンテンツ管理システム(CMS)による学校ホームページを充実させ、ホームページを広報活動の重要なツールとして、一層の充実を図る。生徒の活動等をこまめに記録し、定期的な更新を図る。また、各グループにホームページ担当を置き、今後、各コンテンツの内容を充実させていく。</p>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校環境の整備と防災・防犯意識を高め、安全教育を充実させる。</li> <li>・事故・不祥事防止の徹底を図るとともに、教員のワークライフバランスを推進するために、働き方改革を推進する。</li> </ul>	<p>①防災に係る学校環境の整備と、地域と連携した防災教育や安全教育を充実させる。</p> <p>②職員による事故防止に関する主体的な取組により、事故・不祥事ゼロを達成する。</p>	<p>①喫食訓練を含んだ災害図上訓練(DIG)を実施し、生徒の自主的な防災意識の醸成を図る。</p> <p>②不祥事防止研修を毎月実施し、職員の意識啓発を図り不祥事ゼロを目指す。</p>	<p>①生徒自身が防災に係る意識を高めることが出来たか。</p> <p>(アンケート)</p> <p>②不祥事ゼロを達成出来たか。ヒヤリハットは無かったか。</p>	<p>①災害図上訓練(DIG)では、生徒の自主的な防災意識の醸成を図ることができた。今年度は、感染症予防対策の観点から、喫食訓練は実施していない。</p> <p>②不祥事防止研修会を毎月実施し、職員の意識啓発を図り不祥事ゼロを達成した。</p>	<p>①全生徒への防災意識の醸成に向けた行事や学習会を計画的に実施する。</p> <p>②引き続き、不祥事防止に取り組み、職員の当事者意識を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつもの行事を中止せざるを得ない状況の中、例年の学校運営をすることが出来ずに大変な一年だったかと思う。来年度も同様な状況が続くと思われるので、革新的な学校づくりを進めてほしい。</li> </ul>	<p>①防災訓練として実施した災害図上訓練では、城山高校近辺の地形を学び、災害時における避難経路や避難場所等のシミュレーションをすることができた。ただし、今年度に関しては全体での避難訓練や防災備蓄品を活用した喫食訓練を実施することができなかった。</p> <p>②不祥事防止研修会の実施や新聞記事等の活用による啓発活動に十分にに取り組むことができた。更に職員の当事者意識を高める。</p>	<p>①感染症予防対策と、集会による避難訓練という相反する活動を、今後どのように実施できるかが課題である。集会せずとも防災意識が醸成できるような指導も必要である。</p> <p>②次の3点を重点化して、不祥事ゼロに向け引き続き取り組む。若手教員による研修会の充実、外部講師(弁護士等)による研修会の実施、職員への個別面談</p>